

小児在宅をはじめめる・深める
きっかけの5日間

医療的ケア児や 重症心身障がいのある 子どもたちと生きる

岐阜の10年後を変える
冒険者たちとして

場 所: 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック
岐阜県羽島郡岐南町薬師寺4-12

参加費: 1日につき 1000円

対象: 小児在宅医療に関心のある支援者(職種・経験問いません)
および本人家族

定員: 50名(先着順)

申込み: 名前・所属・職種・連絡先を、QRコード、
メール、ファックス(裏面)のいずれかで
ご連絡ください。



E-mail: study@sogo-zaitaku.jp FAX: 058-213-7831

問い合わせ先: 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック
担当: 海野(かいの)・平田
058-213-7830 (9時~17時半)

主催: 一般社団法人Peace Co

「医療的ケア児や重症心身障がいのある子どもたちと生きる」は、小児在宅医療に関心はあるけれどまだ関わりがない、関わり始めていくけれどもっと深く知りたい、という方に向けて、2018年度から行っている研修です。

全国から選りすぐりの講師をお招きし、今年度は一般公開もいたします。岐阜県のこれからの小児在宅医療を作っていくみなさまのご参加をお待ちしております。



この研修は日本財団から
ご支援をいただいています。

10月6日(日) 14:00~17:00

小児在宅医療と呼吸リハビリテーション ~そのゼロゼロを楽にしたいですね~



医療法人はるたか会 あおぞら診療所ほっこり仙台 院長
田中 総一郎氏

奈良県生まれ、東北大学医学部卒業。
東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野准教授を経て、平成28年10月より現職。専門分野は障害児医療、小児神経学、睡眠障害、呼吸障害。
近著に『重症児者の防災ハンドブック-3.11を生きぬいた重い障がいのある子どもたち』(クリエイツかもがわ、2012)。
医療と福祉と教育とご家族の橋渡しの役割が出来ればと思っています。

10月19日(土) 14:00~17:00

ビデオで学ぼうてんかん発作



静岡てんかん・神経医療センター 院長
高橋 幸利氏

岐阜県本巣市出身、1982年岐阜大学医学部卒業。専門は小児科、特に子どものてんかんの治療。
(職位・委員等)岐阜大学医学部客員臨床系医学教授、てんかん学会理事、専門試験委員会委員長、小児神経学会評議員、薬事委員会委員
(受賞歴)日本神経免疫学会賞、平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発部門)日本小児科学会学術研究賞

12月22日(日) 10:30~12:00/14:00~17:00

10:30~12:00

NICUに入院した赤ちゃんのフォローについて



東京都立小児総合医療センター 新生児科医長
岡崎 薫氏

1971年京都市生まれ、その後、福井市へ転居。1996年、香川大学医学部を卒業し、小児科に入局する。1年目で大学が嫌いと宣言し、以降、公立周桑病院、愛媛県立中央病院、東京都立八王子小児病院、国立四国こどもとおとなの医療センターで市中病院を謳歌し、2015年より現職。
小児科専門医・周産期専門医(新生児)、新生児蘇生法インストラクター、インфекションコントロールドクター(ICD)。

14:00~17:00

子どもが元気になる在宅ケア

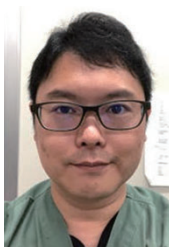


株式会社スペースなる 代表取締役
梶原 厚子氏

愛媛大学医学部付属病院などを経て、1996年(株)クロスサービス福祉事業部ケアサポートまつやま入社。訪問看護ステーションほのか・居宅介護支援事業・児童デイサービスを開所したのち、2012年に医療法人財団はるたか会理事に就任。看護リハ部統括管理者として、あおぞら診療所訪問看護・訪問看護ステーション(千葉県・東京都・京都府)に携わる。2018年からは(株)スペースなる(東京都)代表取締役として、Tamaステーションなる訪問看護事業、子ども等支援事業、Tamaステーション福々研究研修事業を行っている。

1月18日(土) 14:00~17:00

医療を必要とする子どもたちの そだちと暮らし



岐阜大学大学院医学系研究科 障がい児者医療学/
小児病態学 特任助教
山本 崇裕氏

1979年岐阜県岐阜市生まれ。2004年に岐阜大学医学部卒業後、岐阜県立岐阜病院(現・岐阜県総合医療センター)で臨床研修を開始。その後岐阜大学医学部附属病院小児科に入局後、高山赤十字病院、大垣市民病院、長良医療センターを経て、2010年より岐阜大学医学部附属病院小児科に勤務。2014年より障がい児者医療学寄附講座に所属し、臨床と医学教育に取り組む。三男一女の父、趣味は映画鑑賞と熱帯魚の飼育。

2月16日(日) 9:00~12:00

涙も笑いも、力になる ~院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと~



昭和大学大学院保健医療学研究所 准教授
ホスピタルクラウン
副島 賢和氏

東京都公立小学校教諭として25年間勤務。06~13年品川区立清水台小学校「昭和大学病院内さいかち学級」担任。ドラマ『赤鼻のセンセイ』(日本テレビ/09年)のモチーフとなる。11年『プロフェッショナル仕事の流儀』(NHK総合)に出演。2014年4月より現職「昭和大学病院内学級」を担当。(資格・役職)学校心理士スーパーバイザー、日本治療学会理事など(著作)『赤はな先生に会いたい!』(金の星社/18年)など